

## 広島市スポーツ振興計画における数値目標の見直しについて

	数値目標	委員の意見	数値目標を見直す方向性
1	週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を <u>3人に2人(65%)以上</u> にします。	目標は高い方がよいが、数値目標を上げるのであれば理屈が必要(70%程度)	2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、スポーツに親しむ人の増加が見込まれる。
2	新体力テストの結果において広島市の平均値が全国値以上となる種目の割合を <u>50%以上</u> にします。	全国平均の結果に影響されて波があるため、絶対評価等の数値目標に変更した方がよい。	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(別紙1参照)は、全数調査であり、平均値にばらつきがないことから、当該結果を基準に数値目標を設定する。
3	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手の割合を <u>50%以上</u> にします。	「ふるさと選手」を含めるのであれば、数値目標を上方修正し、「ふるさと選手」をフォローするメッセージを出す必要がある。	「ふるさと選手」を含めた場合、平成26年度は、57.7%であることから(別紙2参照)、これを踏まえた数値目標を設定するとともに、「ふるさと選手」に係る新たな施策を展開する。
4	トップス広島に加盟するチームの試合を年1回以上会場で観戦した市民の割合を <u>50%以上</u> にします。	カープとサンフレッチェの盛り上がりを考慮しても、目標と10%程度の差があることから、据え置きとする。	過去4年間の市民意識調査の結果を見ると、いずれも40%を下回っており、50%の目標達成が厳しい状況にあることから、引き続き、2020年に50%を達成できるよう各施策の推進に取り組む。